



島に就職

2001年4月、東京都大島町（以下、大島）にある大島元町薬局（写真1）に赴任しました。大学4年の夏、私は大学院の進学に向けて準備していました。まだ4年制だったので大学院で病院実習のあるコースに入り、臨床での経験を積みたいと思っていました。ただ、本当にこの選択で良いのか迷っていて進学の準備にあまり身が入っていなかったことを覚えています。

そんな中、大学で一つの広告を目にしました。島の地図が中央にあり、その周りに海や山などの自然あふれる写真があり（写真2～6）、そして「この自然あふれる島で、薬剤師として働いてみませんか？」というメッセージがありました。大島での薬剤師募集です。私はその時、大島についてほとんど知りませんでしたが、それを見たとき、自分の中の何かが動き出した気がしました。

当時、私は自宅のあった神奈川県の茅ヶ崎から片道約2時間かけて通学していました。4年間満員電車の中で人混みにもまれ、それ違う人と肩がぶつかっても声をかけられなくなった自分がいました。私には1歳上の兄がいますが、兄と比べ要領が悪く成績も良くなかったです。ただ取り組んだことはあきらめ



写真1 大島元町薬局



写真2 2月椿



写真3 3月大島桜

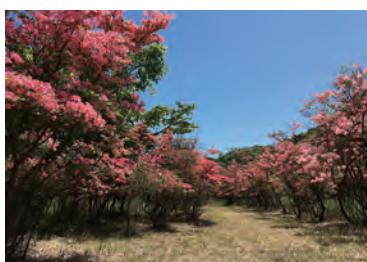


写真4 5月つつじ



写真5 6月あじさい



写真6 筆島

ず続けて、人ともじっくり接していくことで道が開けていきました。小学校から続けていた野球も中学・高校ではベンチに入るのがやっとでしたが、大学では主将を務め、所属していたリーグの選抜チームに入り、関西・東海との交流試合にも参加できました。悩んでいた中、いつもそばで見てくれていた母親から「あなたらしいじゃない、行ってみたら？」と言われ、自然あふれる大島で働くことを決めました。

東京都大島町について

東京から南に約120 km の太平洋上に位置する伊豆諸島最大の島です。竹芝客船ターミナル（東京都港区）から高速船で1時間45分、調布飛行場から空路で25分の距離で三原山、椿、波浮港が有名です（写真7～11）。人口は7,057人（2022年3月1日現在）です。



写真7 見晴台から見た波浮港

私が赴任した時は9,562人（2001年3月1日）で人口は年々減少しており、若者が減ってきていて高齢者の割合は全国よりも高いです。東京都なので車は品川ナンバーですが、コンビニはありません。しかし、この島のほぼ全域が富士箱根伊豆国立公園区域に指定されていて今でも自然が多く息づいています。

大島元町薬局の現状

大島にある唯一の保険薬局です。大島町公設民営型医療機関である大島医療センター（常設診療科目：4科、臨時診療科目：7科、病床数：19床）を中心に、大島医療センター南部診療所（月に1～2日開局）、東京都の島嶼地区との連携をしている都立広尾病院等の処方箋を応需しています。



写真8 波浮港の街並み



写真9 ゴジラ溶岩と富士山



写真10 三原山

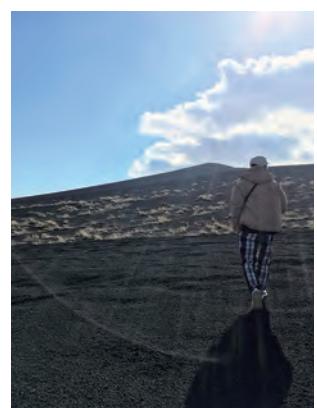


写真11 裏砂漠

1日の処方箋枚数は150~300枚程です。大島医療センターの臨時診療科目により枚数の変動が大きく、日帰りで来島される医師が多いので11時~15時頃に処方が集中します。職員は薬剤師5名、事務3名です。薬剤師は皆、島外出身の者で、長期間赴任できる者は少なく、パートで雇うこともできないので、人材確保がとても大変な状況です。そのため処方箋枚数や時間帯によって職員の人数調整ができず、患者様の待ち時間が長くなってしまうことがあります。バス（約1時間に1本）、社会福祉協議会の送迎、介護タクシーで来ている高齢者の方も多く、小さいお子様と薬を待っている方もいるのでご迷惑をかけてしまうこともあります。

しかし、赴任している薬剤師、大島出身の事務で協力して患者様のために日々業務を行っております。また患者様のほとんどが島の方なので、顔見知りの方が多く、長い待ち時間になっても状況を理解していただいて笑顔で「ご苦労様、いつもありがとうございます」と言つていただけることもあります。カウンターにおよその待ち時間を表示していて、後で取りに来てくれる方もいらっしゃいます。また、お薬が準備できた時点で携帯電話へ着信を残すサービスもしております。

在宅業務

高齢者の方や独居の方も多く、お薬管理が難しいことから医師、訪問看護師、ケアマネ

ジャーと連携して在宅業務も行っています。認知の方はとりわけアドヒアランスが悪く、1週間に1回の訪問だけだと管理が難しいので、訪問看護師・ヘルパーと協力してしっかりお薬を飲めるようにサポートしています。ポリファーマシー、服用回数については医師に相談の上、改善を図っています。また服用時間に電話して服用を促している方もいます。

台風災害時の活動

2013年10月16~17日、台風26号により24時間降水雨量が824ミリとなる記録的豪雨に見舞われ、その影響により土石流が発生し、薬局がある元町地区の住宅などを巻き込んで死者・行方不明者多数、多くの住宅被害をもたらす甚大な災害が起きました（写真12、13）。

約100メートルの所まで被害が及びましたが、幸いなことに大島医療センター、大島元町薬局の建物の被害はありませんでした。停電・断水がしばらく続く中、出勤できる職員で、医療センターの処方対応をしました。さらに台風27号の接近を受けて避難所が開設され、多くの住民が避難しました。常備薬を持って来ていなかった方のために、派遣されていた日本赤十字医療センターの医師たちと連携して、薬を調剤して避難所に持って行き服薬指導をしました。準備中に停電となり懐中電灯で手元を照らして一包化薬の鑑査をしたことを覚えています。



写真12 台風26号により亡くなられた方の慰霊碑

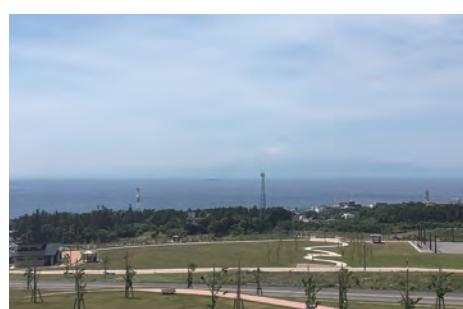


写真13 土石流跡地にできたメモリアル公園



写真14 三原山火口



写真15 現在の土石流跡



写真16 伊豆半島を見ながらのサーフィン



写真17 メモリアル公園内のスケートボードパーク



写真18 地層断面図

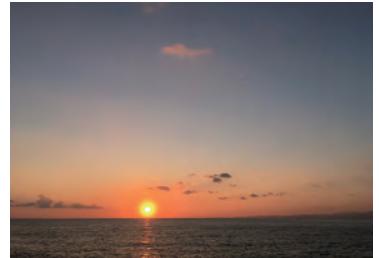


写真19 海岸から見える夕日

新型コロナウイルスでの発熱対応

現在、新型コロナウイルス感染症による医療センター発熱外来受診者へのお薬の対応も元町薬局で行っています。接触を避けるため裏口を使い、ドライブスルー形式でお薬の受け渡しをしています。ただし、他の外来処方と同時に対応しているため待ち時間が長くなってしまい、患者様にはご迷惑をおかけしています。

今後の対応

今後さらに高齢化が進み、自然災害がある中（写真14、15）、患者様のニーズに対応できる薬局にしていかなければなりません。これまで保険薬局が1つしかない中で、どのようにすれば良いか迷いながらも、大島医療センター・大島町・コメディカルの方々・社内と相談・協力し、その時流にあったことを選択してやってきました。今後も島民の方に、より信頼される大島元町薬局で在り続けるよう取り組んでいきたいと思います。

魅力のある島

仕事以外ではサーフィン、野球、ランニング、スケートボード（写真16、17）などを楽しんでいます。その他スキューバダイビング、釣り、サッカー、バレー、バスケットボール、ゴルフをしている人もいます。島民の方と青年活動、消防団に入り消防活動、郷土芸能を習い地域の祭りや竹芝で行われる芸能祭にも参加したりしています。そういう中で島民の方のやさしさ・人間味を感じることで活力をもらっています。

また、子育てにおいても距離・時間的にも対応しやすいので子供の行事にも積極的に参加しています。子供たちも自然の中で伸び伸びと過ごしています（写真18、19）。

できないこともあります、島でしかできないこともあります。この記事を通じて、東京都にもこのような魅力的な場所があり、働いている薬剤師がいることを知っていただけたら幸いです。